

領 収 証

№ 036494

小森 隆一 様

領収金額 70,400-

上記の通り領収致しました

令和6年1月12日



やじま印刷株式会社

〒327-0003 栃木県佐野市大橋町1105

TEL (0283) 22-6428(代)

FAX (0283) 24-7247

小森りゅういち通信 第4号 印刷代

領 収 証

№ 036253

小森 隆一 様

領収金額 70,400-

上記の通り領収致しました

令和5年7月26日



やじま印刷株式会社

〒327-0003 栃木県佐野市大橋町1105

TEL (0283) 22-6428(代)

FAX (0283) 24-7247

小森りゅういち通信 第3号 印刷代

領 収 書

令和 6 年 3 月 29 日

小森 隆一 議員

金額
(消費税込)

4,002円

第5回佐野市議会報告会費用分担金として、上記の金額を領収しました。
(令和6年2月8日開催)

佐野市議会報告会運営委員会委員長 横 井 帝 之



小森りゅういち通信

未来を拓く安心安全な佐野市づくりに挑戦！

第3号

2023年 夏号

発行者 小森 隆一
住 所 佐野市大橋町1021-33
TEL/FAX 0283-22-6172

<ごあいさつ>

脱コロナへの社会構築が少しずつ進み、元の生活も戻ってまいりました。皆さまにおかれましては、今後も感染症対策や健康管理に注意され、ご自愛ください。皆さまからのご意見、ご要望をお待ちしております。

佐野市議会公明党議員会 小森 隆一

小森隆一

検索



ホームページ
公開中

議 会 報 告

<令和4年6月定例議会の一般質問の要旨>

かけがえない命を大切に！



質問1 高齢者の救急医療支援について

質問) 魂のバトン【救急医療情報キット】とは？

答弁 ひとり暮らしの高齢者や高齢世帯、日中独居となる高齢者、災害時に要支援となる要介護者及び障がい者の方々に配布され、かかりつけ医や飲んでいいる薬、病気などの医療情報を書いて、救急医療時に適切な処置の助けとなっている。今後はホームページや広報紙等により、バトン状の救急医療情報キットを必ず冷蔵庫に入れ、医療情報に変更がある場合、記載内容訂正の周知を図る。また、災害時等に避難所への持参を促すよう取扱説明書や名称を見直す。

SDGs の積極的な推進を！



質問2 SDGs への取り組みについて

質問) 地方創生を一層推進していくために、官民一体となりSDGsに配慮した企業の誘致は？

答弁 従来の企業誘致は、本市の立地環境を踏まえ、そのときの経済情勢等による立地が期待できる業種、地域経済の活性化への貢献が期待される業種を第一としてきた。今後は、移住定住施策としての雇用促進、1次産業などの連携した地域資源の有効活用等やエネルギーの地産地消の取組、労働力人口の減少対策としてのデジタル化の推進等、地域の様々な課題に対して行政だけで解決することは困難であり、このような課題に積極的に取り組む企業と共同対応していく事が重要である。そのため市内企業の持続可能な成長を後押しすると共に、地域経済の発展や社会課題の解決を図るために、持続可能な活動に積極的に取り組む企業等、SDGsに配慮した企業誘致に積極的に取り組みたい。

質問) 市民や企業と一緒に、SDGsの取り組みを推進していくためには？

答弁 市民や企業、団体等を巻き込んで、官民それぞれが主体的に取り組むことが必要である。また、市がSDGsの理念や意義、考え方を十分に理解した上で、率先して広報啓発活動を行う必要がある。今後SDGsと関連性が高い事業やイベントを実施する際に、SDGsに関する情報を積極的に発信すると共に、ホームページ等

の市民向けの広報等へSDGsの個別アイコンや目標を表示する等、様々な機会を通じて理解促進と機運の醸成に取り組みたい。

<令和4年9月定例議会の一般質問の要旨>

「こどもの街宣言」子供達を大切に！



質問1 「子どもの幸せ」最優先の街に

質問) 学力を伸ばすために、GIGAスクールのメリットを最大に生かした取り組みは？

答弁 1つ目は、協働的な学びの効果を高める取り組みである。2つ目は、個別最適な学びを促進する取り組みである。この学習は学校だけではなく、家庭でも進めることができる。3つ目は、児童生徒の主体性を引き出したり、興味関心を広げたりする取り組みである。端末を活用することで、学校外でも主体的に興味関心を持って自ら学びを広げていけるよう、今後も端末のメリットを生かした学習を積極的に取り入れながら児童生徒の学力向上を図っていく。

質問) 近隣市では、21時まで学習できる場所もあります。本市においても必要であると考えているが？

答弁 教育施設以外の公共施設では、本来の利用者の活動を妨げない範囲で、ためまふるさと館2階展示室は午後3時から午後8時まで、新たに佐野駅前交流プラザばるぼーとの2階多目的ホールは午前9時から午後9時半まで各々無料で開放している。足利市や栃木市では、夜9時あるいは10時まで学習ができる公共施設があるので、今後検討していきたい。



安心して暮らせる支援の輪を！

質問2 認知症対策について

質問) 「認知症の人と家族への一体的支援事業」について、これまでの支援との違いは？



答弁 認知症の人を支える認知症地域支援推進員の役割に、「認知症の人と家族への一体的支援事業」の新指針が加わり、認知症の人とその家族がより良い関係を保ちつつ、希望する在宅生活を継続できるよう、本人と家族が共に活動する時間と場所を設け、家族関係の再構築等を図ることができ、家族介護者の精神的負担及びストレスの軽減につながると期待。

質問 認知症高齢者を地域で支えていくために、今後強化していく取り組みは？

答弁 地域の方の理解と見守り体制の強化が重要である。そのために、認知症地域支援推進員の活動を通じて、認知症サポーターの養成や認知症カフェへの活動支援、認知症ケアパスの有効活用など、市として認知症施策を総合的に推進していくことが大切。

質問 認知症高齢者が傷害や器物損壊等によって損害賠償請求される事態に備える「損害賠償責任保険事業」への取り組みは？

答弁 認知症高齢者向けの損害賠償責任保険に市で加入する事業についても、調査研究してまいりたい。

誰にも優しい街づくりを！

質問3 障がい者支援について

質問 デジタル障害者手帳アプリ「ミライロID」の導入は？

答弁 障害者手帳に記載されている情報を本人がスマートフォンに取り込み、その情報を画面に表示させる機能を持つ民間企業が提供しているサービスで、公共施設などの使用料及び利用料について障がい者割引を受ける際に、ミライロIDを障害者手帳の代わりに提示することでも認めている他自治体もある。各対象施設との調整が必要となるが、先進地の状況も参考にした上で、導入に向けて今後検討したい。



<令和4年12月定例議会の一般質問の要旨>

弱者に優しい安心安全な街づくりを！

質問1 交通安全最優先の街に

質問 交通安全対策未実施箇所の今後の対策実施計画と改善率の目標は？

答弁 単年度で対策できなかった箇所においても継続審議をし、時間をかけて対策できたケースもある。今後は、市長を会長とする安全対策連絡協議会や安全対策委員会において、宇都宮国道事務所や佐野警察署、安足土木事務所の関係機関、それと本市の関係各課と連携を図りながら、改善率80%目標で進めていきたい。

質問 中・高校生の自転車事故の要因およびハード面とソフト面での今後の対策は？



答弁 自転車事故の主な要因は、前方、左右の安全不確認やハンドル操作の誤り等である。今後の事故抑止対策は、佐野市交通安全計画に基づき交通安全教育等の充実や街頭における啓発活動等を推進するとともに、関係機関と連携を図りながら注意喚起看板の設置、交通安全施設等の整備、登下校時での交通指導など、引き続き推進していく。県の自転車条例に基づき自転車保険への加入や、ヘルメットの着用及び自転車の点検整備促進も図る。

要望 自転車利用のマナー向上に繋がる教育や現場指導、キャンペーン等を積極的に実施してもらいたい。

誰一人として取り残さない環境づくりを！

質問2 孤独・孤立対策について

質問 不登校児童生徒への支援について現状の課題は？



答弁 本人の気持ちと支援の方向性がそろわず、結果として望ましい支援ができていないケースも一定数あるものと考えている。不登校児童生徒の抱える不安を解消できるよう、学校、家庭、関係機関が連携した支援について、今後一層取り組んでいきたい。

質問 孤独・孤立対策の居場所づくりの一環として行われている「子ども食堂」への支援は？



答弁 今後も日頃から関係者と顔の見える関係を築くよう努め、運営団体が開催する子ども食堂やフードバンク等について、チラシ配布やホームページへの掲載を通じて広報活動を支援するとともに、開設、運営に関する相談等があった際には、一般社団法人栃木県若年者支援機構が運営する「こども食堂サポートセンター・とちぎ」を案内する等、市内に子ども食堂の輪がさらに広がるよう連携、協力していく。

要望 市行政が中心となり積極的支援をお願いしたい。

気軽に楽しくお出かけできる街に！



質問3 高齢者が「おでかけ」しやすい街に

質問 デマンド交通の今後の取り組みは？

答弁 広報紙やホームページを始め、時刻表、ケーブルテレビ等の様々な媒体を活用した周知のほか、バスを用いた説明会の開催、運行区域等の検討を行い、運行事業者と連携して、利用者の増加及び利便性の向上を図り、公共交通空白地域の解消に向けた取組も進めたい。

要望 ある場所に行きたいのだが、現状だとその場所まで行けない、という高齢の方の声があります。高齢者の方が利用しやすくしてもらいたい。

質問 高齢者運賃助成事業については？



答弁 高齢者が日常生活で必要とする通院や買物等の利便性を図るため、高齢者福祉タクシー運賃助成事業や高齢者生活路線バス運賃助成事業を実施している。

要望 高齢者運賃助成制度は開始から約30年位が経過している。対象年齢の引下げや運賃助成の増額等、制度充実の見直しをお願いしたい。



小森りゅういち通信

未来を拓く安心安全な佐野市づくりに挑戦！

第4号

2024年 冬号

発行者 小森 隆一
住 所 佐野市大橋町1021-33
TEL/FAX 0283-22-6172

<ごあいさつ>

皆さまにおかれましては、くれぐれもお身体をご自愛ください。皆さまからのご意見、ご要望をお待ちしております。

佐野市議会公明党議員会 小森 隆一

小森隆一

検索



ホームページ
公開中

議 会 報 告

<令和5年2月定例議会の一般質問の要旨>

こどもたちが幸せ

質問1 新しい価値創造とウェルビーイングな視点を持った学校づくりについて

質問) バリアフリー化に向けての取り組みは？

答弁 バリアフリー化を進め、インクルーシブな社会環境を整備していくと共に、ユニバーサルデザインの考え方を目指す事が求められている。このため、バリアフリートイレやスロープ、エレベーターの設置等施設のバリアフリー化が必要となる。現状は、市立学校29校中、バリアフリートイレ設置学校は15校、スロープ設置学校は23校、エレベーター設置学校は3校である。今後は、義務教育学校の整備や施設の大規模改修等に合わせて進める。

質問) 屋内運動場の整備については？

答弁 近年の厳しい気象条件に対応した教育環境の確保の観点から、教室だけではなく屋内運動場への空調設備の設置を進めることが重要である。しかし本市では、冷暖房が可能な空調設備が設置された屋内運動場は無い。また、既存の屋内運動場は断熱性能が確保されていないため、冷暖房の効率が悪いことから、空調設備を設置する場合は、断熱性能の確保が必要となる。今後の義務教育学校の整備や屋内運動場の大規模改修に合わせ検討する。

質問) 避難所に指定されている学校における防災機能の強化については？

答弁 近年気候変動等の影響により、予め災害に対する安全性を確保する事は元より、良好な避難生活を送れる学校施設の整備が重要である。自家発電設備やWi-Fi等の情報通信環境の整備や、水害が想定される学校では、周辺環境にも配慮した浸水対策を行うなど、避難所として防災機能の強化推進が必要であり、屋内運動場の空調設備設置やバリアフリー化も欠かせない。緊急防災・減災事業債などの有利な財源の活用も含め、検討する。

要望 トイレの整備については、防災・減災対策債を活用できるので、ご検討をお願いしたい。

質問) エコスクールの整備については？

答弁 脱炭素社会の実現に向けて、学校施設の省エネルギー化や再生可能エネルギーの導入などの積極的な推進が求められている。エコスクールおよびZEB化の取り組みを推進していくことは、環境負荷の低減だけではなく、環境教育での活用や地域の先導的役割を果たす観点からも重要である。現在、本市にはエコスクールの認定を受けた学校は無いが、今後の義務教育学校の整備に当たって、エコスクールの認定を受けることを検討したい。

質問2 本市職員の地域貢献のための兼業について

質問) 市職員の地域貢献のための兼業の認定制度をつくることを提案するが？

答弁 地域貢献活動を進めている自治体では、職員が積極的に参加できる環境整備として、営利企業従事の許可範囲を明確にし、対象となる活動、許可要件、想定される活動を例示し、活動に取り組む職員を後押しする制度を運用している事例がある。本市も、少子高齢化等を背景とした担い手不足などの課題解消のために、先進事例を参考に許可基準を明確にして、職員が地域貢献活動を行い易く、積極的に活用される制度を構築し実施したい。

質問3 AYA世代(15～39歳)のがん対策について

質問) AYA世代のがん対策支援やサポートは？

答弁 本市では、がん治療に伴う外見の悩みをケアするアピアランスケアを実施し、医療用ウィッグ、乳房補正具の助成を行っている。また、積極的接種勧奨を控えていた子宮頸がん予防ワクチン接種も、令和4年度より定期接種の積極的接種勧奨を再開し、キャッチアップ接種も行っている。さらに、がん検診受診のきっかけとなるよう、20歳のときの子宮頸がん検診と40歳のときの超音波検査及びマンモグラフィー検査ができる乳がん検診の無料クーポン券を健診スタートブックにつけている。乳がん検診は有料となるが、30歳より超音波検査を受けられる。栃木県では、仲間同士で支え合う「ピアサポーター」の養成や自らの体験や悩みを話し合うことで、自分の悩みの理解解消の一助にしたり、がんに向かう力を育くめる「交流会」を実施している。将来の妊娠への経済的支援として、妊孕性温存療法と温存後生殖補助医療への助成も実施している。

妊孕性…妊娠する為の力

再質問) 乳がん検診無料クーポン券を 40 歳から 30 歳に引き下げることはできないか？

答弁 がん検診は、40 歳からマンモグラフィーによる乳がん検診が推奨されている。本市も 40 歳時に乳がん検診の無料クーポン券を送付しているが、今後他市の状況等を踏まえて調査研究していく。

要望 ウィッグ等のアピアランスケア助成支援について、AYA 世代へも広く周知願いたい。

<令和 5 年 6 月定例議会の一般質問の要旨>

質問 1 誰も取り残さない不登校対策について

質問) 教育委員会が不登校の子供の保護者が自由に参加できる「(仮称)「保護者の会」を設置し、そこにスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーをコーディネーター役として派遣し、不登校の子供の保護者を支援していく取り組みが必要だが？

答弁 教育委員会では、教育センターを中心に、不登校児童生徒の保護者支援の一つとして、不登校支援フォーラムを実施している。参加した保護者同士での情報共有の際には、各グループのファシリテーター役を教育センターの相談員、臨床心理士、スクールソーシャルワーカーが務めている。参加した保護者からは、好評の声が多い。

要望 回数も増やして継続して開催していただきたい。

質問) 不登校の児童生徒は一人一人の状況が大きく異なる。全ての小学校にスペシャルサポートルーム等を設置する必要があると思うが？

答弁 自分の学級に入りづらい児童生徒に対し、学校内に落ち着いた空間の中で自分に合ったペースで学習、生活ができる環境を整えることは、その児童生徒の安心感につながり、効果的な支援の一つである。現状一部の学校にはそのような教室が用意されている。今後も学校の実情に応じて、安心して学べる環境づくりに取り組む。

質問) 不登校生徒の高校進学を支援するため、自宅やスペシャルサポートルームや教育支援センター等での学びを学校での成績に確実に反映させることが重要であると思うが？

答弁 不登校生徒は、自宅等でオンラインによる授業を受講したり、学校の課題に取り組んでおり、中学校、義務教育学校では、その取組状況から学習評価を行い、その結果を評定などの成績評価に反映させている。今後、不登校生徒の個々の学習状況を把握し、本人の進学等の意向も考慮しながら、丁寧に取り組んでいきたい。

要望 子供たちが「学校へ行きたいな」と思える【学校の風土づくり】もお願いしたい。

質問 2 熱中症対策の推進について

質問) 熱中症の予防のためにクーリングシェルの整備が必要と思うが？

質問) 若い世代への在宅療養支援制度（在宅ターミナルケア支援助成）への本市の今後の取り組みは？

答弁 AYA 世代における在宅ターミナルケアは、在宅療養する上で、生活の質の向上に必要なサービスと考える。各種サービスにおける経済的負担が増す在宅ターミナルケア支援について、県内取り組み市を参考に、今後支援や助成を研究していきたい。

答弁 国では、指定暑熱避難施設「クーリングシェルター」を自治体が指定できる仕組みを検討中である。これとは別に、本市では今年度新たに外出の際、熱中症が疑われ、体調不良となった方に、一時的に休憩場所として、庁舎や各地区公民館等 32 か所に熱中症予防対策避難所として通称「涼み処」を設置した。

質問) 高齢者の方への熱中症に対する予防への意識を醸成するための取り組みは？

答弁 介護予防教室や地域の高齢者が集う通いの場や高齢者の総合相談窓口である地域包括支援センターに熱中症予防対策やエアコンの適切な使用に関するチラシを提供し、熱中症への注意喚起を行っている。エアコンの点検、整備の勧奨については、「広報さの」に掲載し、広く市民に周知を図りたい。

質問) 熱中症予防対策を推進する上で、学校での WBGT 計の設置や運用等についての取り組みは？

答弁 WBGT (暑さ指数) 計は、危険な暑さを可視化し、熱中症による事故未然防止のために学校管理上、不可欠であり各学校で配備している。「学校における熱中症対策ガイドライン (佐野市版)」に基づき夏場には毎日使用し、小まめな水分補給、冷房の使用、教育活動の実施形式や時間の変更等により熱中症予防に努めている。

質問) 子供たちの熱中症予防対策で、熱中症警戒情報が発令された場合の学校や通学時の対応は？

答弁 各学校では熱中症警戒アラートが発令された場合、実際に暑さ指数を計測した上で、学校行事や体育、運動部活動などの中止を判断する。登下校時には、児童生徒に水分の補給や帽子の着用、傘の使用等を推奨し、熱中症事故の防止に努めている。

要望 登下校中、「涼み処」のような形で、子供たちが少し休めるような場所を作ってもらいたい。

質問) マイボトル給水スポットの設置を提案するが？

答弁 給水スポットを公共施設などに設置し、マイボトルを活用することは、ペットボトル等のプラスチック製品の使用削減を始め、熱中症や感染症の予防といった市民の皆様の健康維持にもつながる。温室効果ガスの排出削減や環境汚染の防止にも繋がるため、市民のプラスチックごみに対する意識醸成を図る上で有効である。他自治体の導入状況や効果運用コスト等について調査研究を進める。

